

夏期における嗜好的飲食物の利用形態に 関する一考察

歳 森 茂

1. 利用形態の三型

昨年、夏期8月における嗜好的飲食物の利用状態について、成人、大学生、高校生、中学生合計3,751名を対象にアンケートによってまとめて報告した。この調査は良くないとされる飲食物の利用を調べるのが目的であった。そして全国各地の知人たちのお世話によって集められたアンケートを計算しながら面白いことに気づいた。それは当初の予想に反して、大都市、中小都市及び都市近郊農村部の嗜好にほとんど差が認められないことであった。都市化現象というべきか。これを都市型と称することにする。これは食品公害に無関心かまたは関心がうすく、例えばコーラを含む炭酸飲料類や果汁入り清涼飲料類を良くまたは比較的良く利用するなどの特長があり、アンケートのほとんどのものがこれに属するように思われた。これに対して、安全食品志向型ともいうべきタイプがある。これは自然食品を基本とし、市販の嗜好的飲食物にも絶えず警戒の眼をゆるめないタイプである。その1つの例として吹田市の「グループ千羊」をあげる。もう1つは山村型と思われるタイプである。これは高知県園芸試験場の野並定氏が指定され、アンケートをとって下さった吾川郡吾北村がその1つの例である。ここでは都市化の波に洗われない素朴な形態を保っているように思われた。

2. 三型の比較

写真1は7月23日の朝日新聞にも紹介された吹田市南千里公民館におけるグループ千羊の安全食品教室の実験風景のひとつまでである。市販のジュースの中に合成着色色素の入っていることを子供と一緒に実験して子供の目で確かめている。この実験には私も参加したが、本来は教育機関でやるべきものを、わ



写真1 吹田市における「母と子の安全食品教室」(昭55.7.21)

が子を含めて子供たちを守るためにやむを得ず懸命に努力している主催者たちの熱意に打たれた。

次に都市型の1つとして高松市の K グループをあげる。これは目下食品の安全性にめざめつつあるものである。

まず、グループ千羊と K グループならびに吾北村の8月における嗜好的飲食物の利用状態の比較をあげると表1及び表2のようである。

表1は1回以上飲食したものの割合であるが、各グループの間に歴然とした差がある。グループ千羊ではアイスクリーム類は72%で他より低く、かき氷類も28%と低い。カルピス・コーラスは36%と著しく低い。牛乳は97%と断然高く反対にコーヒー牛乳は39%の低さである。添加物や香料をさけて市販のアイスクリーム類よりも手製を利用する人が多く、Ca 給源としての牛乳は評価しよく利用しているが低質であると批判されているコーヒー牛乳の値は低い。また炭酸飲料類や果汁入り清涼飲料は53%、39%と低いが100%果汁は72%と他よりも高い。果汁入り清涼飲料と100%果汁の数字を K グループと比較すると意識的選択は明然としている。乳酸菌飲料や「はっ酵乳」は61%と他よりも高く、コーヒーはやや低くコーラは11%と断然低い。豆乳は K グループが3%の低さに対して千羊では28%の高さである。そして健康には有害無益とされる粉末ジュースは全く利用していない。このようにグループ千羊は極めて選択的で

表1 8月に飲食した嗜好的飲食物の種類別利用割合※¹ (S16及び以後生れの成人女子)

| No. | 種 類 | グループ千羊 (吹田市) | | Kグループ (高松市) | | 吾北村 (高知県) | |
|-----|--------------|-----------------|---|----------------|---|--------------|---|
| | | | % | | % | | % |
| 1 | アイスクリーム類 | 72 | % | 89 | % | 87 | % |
| 2 | かき氷類 | 28 | | 53 | | 35 | |
| 3 | あめゆ | 3 | | 8 | | 0 | |
| 4 | あま酒 | 6 | | 5 | | 0 | |
| 5 | 水ようかん | 39 | | 40 | | 57 | |
| 6 | プリン | 44 | | 69 | | 39 | |
| 7 | カルピス・コーラス | 36 | | 68 | | 74 | |
| 8 | 牛乳 | 97 | | 87 | | 83 | |
| 9 | コーヒー牛乳 | 39 | | 77 | | 39 | |
| 10 | 炭酸飲料類 | 53 | | 74 | | 43 | |
| 11 | 果汁入り清涼飲料 | 39 | | 63 | | 61 | |
| 12 | 100%果汁 | 72 | | 60 | | 57 | |
| 13 | つぶつぶみかん | 33 | | 68 | | 57 | |
| 14 | 乳酸菌飲料や「はっ酵乳」 | 61 | | 52 | | 48 | |
| 15 | ビール | 72 | | 69 | | 83 | |
| 16 | 日本酒 | 6 | | 8 | | 39 | |
| 17 | 洋酒 | 31 | | 26 | | 4 | |
| 18 | 果実酒 | 36 | | 40 | | 57 | |
| 19 | コーヒー | 69 | | 81 | | 48 | |
| 20 | コーラ | 11 | | 50 | | 9 | |
| 21 | 紅茶 | 69 | | 48 | | 4 | |
| 22 | 麦茶 | 92 | | 95 | | 83 | |
| 23 | 野菜ジュース | 33 | | 27 | | 30 | |
| 24 | 豆乳 | 28 | | 3 | | 9 | |
| 25 | ミネラルウォーター類 | 11 | | 13 | | 0 | |
| 26 | すいか、ももなどの果物 | 100 | | 97 | | 100 | |
| 27 | 冷凍みかん | 14 | | 10 | | 0 | |
| 28 | 粉末ジュース | 0 | | 6 | | 13 | |

※¹ 8月に1回以上飲食したものの割合である

ある。しかし千羊の世話役S女から頂いた手紙には「普通ならばジュースもカルピスも飲まないのに、アンケート集めのため他家を訪問する機会が多く、外出先で出されたものを断るわけにもいかず、はなはだ本意な結果を書いたという人も多くありました」とあり、表1よりはもっと選択的な数字となるわけである。吾北村は他に較べてカルピス・コーラス、ビール、果実酒などが高い。

また粉末ジュースが13%と高いのは頂けないことである。これらからやや古い形態の嗜好が予想される。そして100%果汁より果汁入り清涼飲料のほうが高いのはKグループと同様である。

次に表2に、8月に最もよく、または比較的良好に飲食したものの順位を、各グループについてみた。Kグループは千羊に較べて、アイスクリーム類やコーヒーの位置が高く、果物の位置が低い。一方、千羊ではアイスクリーム類や炭酸飲料類は第7位までには入っていない。なおKグループに較べて香川県の平均は、炭酸飲料類の位置がやや高いだけで5位までの順位は全く同一であり、Kグループが香川県のほぼ代表と見ていいわけである。

表2 8月に最もよく、または比較的良好に飲食したもの

| グループ千羊 | | Kグループ | | 吾北村 | |
|--------|--------|-------|-----------|-----|--------------|
| 順位 | 種類 | 順位 | 種類 | 順位 | 種類 |
| 1 | 麦茶 | 1 | 麦茶 | 1 | 麦茶 |
| 2 | 牛乳 | 2 | 牛乳 | 2 | 牛乳 |
| 3 | 果物 | 3 | アイスクリーム類 | 2 | 果物 |
| 4 | 100%果汁 | 4 | コーヒー | 4 | ビール |
| 4 | コーヒー | 5 | 果物 | 4 | 乳酸菌飲料や「はっ酵乳」 |
| 6 | ビール | 6 | 炭酸飲料類 | 4 | カルピス・コーラス |
| 7 | 紅茶 | 7 | カルピス・コーラス | 4 | 100%果汁 |

次に表3は、前記の野並氏が意識的に集めて下さったアンケートをまとめたものである。即ち、同じ高知県の中で高知市内の人と、兼業化が著しく進み都市化の波に洗われている葉山村と、この吾北村を較べたものである。なお、これはいずれも前と同じ昭和16年及びそれ以後生れの人たちである。葉山村はプリン、カルピス・コーラス、コーヒー牛乳、炭酸飲料類、洋酒、紅茶及び100%果汁において高知市と吾北村の全く中間的な数字を示している。つまり兼業によって都市との接触がふえ、収入も多少増加するのに従って、食物や嗜好が都市化していくということであろう。都市化によって嗜好の増すものは表3によれば、プリン、コーヒー牛乳、炭酸飲料類、洋酒、コーヒー、コーラ、紅茶及び100%果汁であり、反対に、嗜好の低下するものは、カルピス・コーラス、日本酒及び粉末ジュースであるといえるようである。

表3 都市化と嗜好の変化（8月に飲食したもの※¹）

| | 吾北村 | 葉山村 | 高知市内 |
|-----------|------|------|------|
| プリン | 37 % | 61 % | 64 % |
| カルピス・コーラス | 74 | 61 | 59 |
| コーヒー牛乳 | 39 | 61 | 68 |
| 炭酸飲料類 | 43 | 61 | 68 |
| ビール | 83 | 50 | 68 |
| 日本酒 | 39 | 22 | 23 |
| 洋酒 | 4 | 6 | 27 |
| コーヒー | 48 | 72 | 64 |
| コーラ | 9 | 28 | 23 |
| 紅茶 | 4 | 28 | 41 |
| 果汁入り清涼飲料 | 61 | 50 | 59 |
| 100%果汁 | 57 | 67 | 73 |
| 粉末ジュース | 13 | 0 | 5 |
| 農家率 | 87 | 50 | 11 |
| 専業 | 10 | 0 | 0 |
| 一兼農家 | 40 | 13 | 0 |
| 二兼農家 | 50 | 87 | 100 |

※¹ 8月に1回以上飲食したものの割合である

3. 吾北村を訪ねて

統計資料による吾北村の概況は表4、表5のようである。人口は表4に示すように20年間に48%減少している。そして表5で分るように土地は広く人は少なく、イネの10アール当り収量，耕地10アール当り生産所得及び農家1戸当り農業所得は，香川県の山間部の4町と較べて著しく劣る。農家1戸当りの農業

表4 吾北村の人口減少

| 時 期 | 人 口 | 比 |
|---------|-------|-------|
| 昭35年10月 | 8,977 | 100.0 |
| 40年10月 | 7,413 | 82.6 |
| 45年10月 | 6,036 | 67.2 |
| 50年10月 | 5,203 | 58.0 |
| 55年10月 | 4,684 | 52.2 |

(国勢調査による)

表5 吾北村の土地と農業（香川県の山間部と比較して）（昭54）

| | 総土地積 面 | 総人口 | 1 ha 当り 人口 | イネの10アール 当り収量 | 耕地10アール 当り生産所得 | 農家一戸当り 農業所得 |
|-----|----------------------|--------------------|-------------------|-------------------|----------------------|-----------------------|
| 吾北村 | 16,205 ^{ha} | 4,704 ^人 | 0.29 ^人 | 312 ^{kg} | 62 ^{1,000円} | 322 ^{1,000円} |
| 葉山村 | 6,679 | 5,216 | 0.78 | 343 | 73 | 343 |
| 塩江町 | 8,010 | 4,523 | 0.56 | 368 | 113 | 605 |
| 琴南町 | 8,324 | 4,367 | 0.52 | 371 | 97 | 636 |
| 仲南町 | 5,877 | 5,323 | 0.91 | 389 | 111 | 1,046 |
| 財田町 | 4,724 | 5,183 | 1.10 | 380 | 137 | 1,619 |

（各県農林水産統計年報による）

所得がわずか32万円ほどしかない（高知県の山村の中にはこれより低いところもある）。

さて、6月5日、野並さんのご案内で吾北村を訪ねた私が、表2などを説明すると、生活改良普及員さん等が吹き出すではないか。「ここは嗜好飲料は余り利用しないところで牛乳も余り飲んでいない。しかしCa不足を補うため牛乳を飲め飲めとやいやい言っているところです。だから、いやいや飲んでいる牛乳が嗜好飲料の中で大きなウェイトを占めて（第2位）いるのでしょうか。」ということだった。そして栄養関係の資料をお借りしてまとめたのが表6である。

表6 吾北村の成年女子の栄養診断（その一部）

| | 菓子類 | 嗜好飲料 | 果実類 | 肥満度 |
|-------------|------|------|-----|------------------|
| 全国平均より多い者 | 42% | 16% | 58% | 標準より10%以上 39% |
| 全国平均の半分以下の者 | 35 | 61 | 22 | 標準よりやせている 23% |
| ゼロの者 | 23 | 29 | 3 | |
| 判定 | やや多い | 少ない | 多い | やせ型より肥満型がやや多い |

（注：総合農村健康管理センターの食事栄養診断（S55, 10.22）より計算する。）

狭い田畑，土地のほとんどが傾斜地というところで，労働強度は重労働の方32%，やや重い労働の方58%，両者合せて90%であって女性たちは重い労働をしているのである。そこで充分自給できる西瓜，かんきつ類などの果物や菓子

類は比較的良く利用して（表6）、やや肥満型が多い。そして嗜好飲料は少ない。聞けばこの広い村に自動販売機はわずか3台しかないという。

午後は普及員さんのご案内で村の見学に出かけた。南へ（香川方向へ）登るに従って一車線の道は対抗車の処理に難渋する。先祖が義民だという立派な神棚を備えたTさんのお宅へ案内される。T夫人は自給用の無農薬野菜を沢山栽培し、その一部は出荷し、山菜も作付けしておられる。生活費のことを伺う

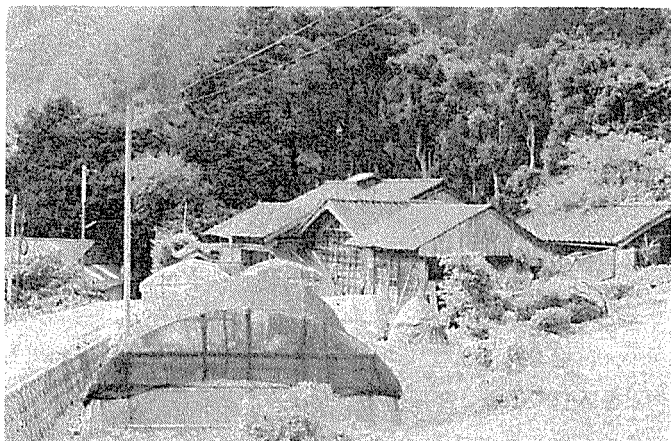


写真2 吾北村における農家の一部（ほとんど傾斜地に立っている）（昭56.6.5）

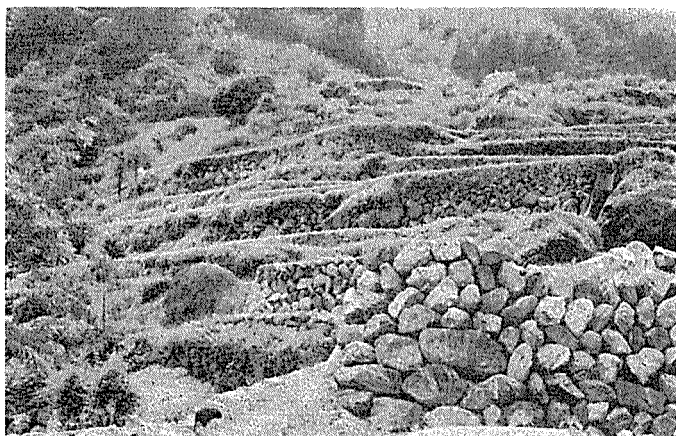


写真3 吾北村における千枚田（冬は多湿で休閑状態）（昭56.6.5）

と「どうしても月10万円は要りますので」とおっしゃる。月10万一年120万円である。農業収入が平均32万円といい、つつましい生活にならざるを得ない。つまり嗜好飲料を余り利用しないのは、現金支出を控えるためである。外での飲食は高くつく。例えば吾北村で食べた食堂の食事は一飯二菜で500~600円であり、高松市内並みの高さに驚ろいたことである。このケースに缶、びん飲料が沢山あったので聞いてみると100円の缶（コーラ、Sprite、ネクター類などあった）より80円の瓶ジュースのほうが良く売れますという。その80円のジュースを取り出してみると無果汁と表示されていた。粉末ジュースの利用といいこの無果汁ジュースといい、要するに価格が第一の条件であって、栄養、食品公害意識まで及ばない。食堂のおばさんは「中学生はよくジュースを飲みます」という。普及員さんは「嗜好は定着していて新しいものにほとんど手を出さない」という。新しい嗜好飲料に手を出して溺れると現金支出が大変だという意識は当然抑止力を持つ。従って現金収入が増大すれば葉山村のタイプに移行する筈である。

千枚田があったので登ってみた（写真3）。わずかに畳2枚ほどの田もある。その一つへ足を入れてみると多湿のため靴がぬかり込み泥だらけとなった。イネの刈株がそのまま6月まで残っていて冬中休閑されていた。高知県の田植えは一般に早いのにまだイネの作付けの気配はない。

約3時間かけて車で村を回り、色々見聞した結果、吾北村では産業開発特に農業振興による現金収入増が一番の課題であり、次が栄養改善特に栄養意識改善であると悟った。

大都市では自然食品を求めて不良食物に目を光らせている。一方過疎の村では自給の自然食品は豊富にありながら安直な嗜好飲料に手を出す。何とも皮肉な現象である。

野並氏が吾北村を選んだ理由として、高知市から約43km（車で100分）の距離にありながら住民は極めて純ほくですと手紙に書いてあったが、6月1日の「広報吾北」には、「蝶追いて保育の孫の帰る」というA女の句が吾北俳壇に入選していた。

過疎現象が治まり、この村の純ほくさがいつまでも存続するよう祈るしかない

い。

要 約

夏期における嗜好的飲食物の利用形態として、安全食品志向型、都市型及び山村型（いずれも仮称）が認められた。そして山村型は兼業化の促進によって都市型へ移行することが予想された。

謝 辞

本調査に御協力頂いた高知県園芸試験場主任研究員野並定氏、高知県生活改良普及員竹村美子、同筒井征子の三氏に深謝する次第です。